

1 直近の活動

- 4月7日(日) 幹事会
- 4月13日(土) **YES-Metals!**
- 4月14日(日) 「企業内技術士勉強会」(第14回目)
- 4月20日(土) 中国方面で面談
- 4月21日(日) 中部本部交流会
- 4月28日(日) 金属部会定例部会(4月分)

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

- 5月7日(火) 幹事会(ZOOM)
- 5月11日(土) 近畿本部三部会創立20周年記念式典(近畿本部)
- 5月12日(日) **YES-Metals!**・金属部会合同歓迎会(機械振興会館)
- 5月14日(土) 倫理研究会講演「金属部会企業内技術士勉強会について」(機械振興会館)
- 5月18日(土) 二次合格者説明会(機械振興会館) **YES-Metals!**対応(機械振興会館)
- 5月19日(日) 企業内技術士勉強会「 세미나講演再現」(機械振興会館)
- 5月21日(火) 部会長会議(機械振興会館)
- 5月26日(日) 定例部会(神奈川県担当)

3 部会四方山

▶ 65周年記念誌のオンライン配布はまだ続いているお手数ですが、ここからダウンロードしてほしい。

<https://xgf.nu/eHe5o>

PW : metals65

2024年5月30日期限

感想も届き始めている。関係者が総力を挙げてつくりあげた力作なので一言いただければ励みになる。

<https://forms.office.com/r/zk0CrLcJeM>

▶ 4月は、出会いの季節だ。大阪方面へのお出かけでの出会いは結構きつかった。4月17日は大阪で大学柔道部連中と夜中までの宴会、4月18日は熱処理セミナー終日、4月19日は技術者倫理セミナー終日。どちらもリアルで立ちっぱなしの講師で足が攣りそうになった。さらにきついのは19日が終わってからのたまたま大阪で揃った和鐵三兄弟の食べ会。長男の和鐵が一番スマートな団子3兄弟が食べ放題のしょぶしゃぶに命を掛けて挑んだ。凄まじい食欲であったが、和鐵の胃袋は崩壊寸前になった。4月20日、広島で中国本部の方の世話になりながらタタラ巡り。9時福山出発で帰りついたら20時前のハード旅行だった。大満足。で、21日の午前中は名古屋で昔の友達を呼び出して有名珈琲店でコーヒーをがぶ飲みし、午後は中部本部で交流会。宴会ののち、こだま号で新横浜まで爆睡しながら戻っ

た。何が一番きつかったかといえば兄弟の爆食。年々、爆食後のダメージ期間が長くなるような気がする。よく、セミナー前にしなかったものだ。年を取って自制心が出てきたとしておこう。▶戻ってからは、ずっと工事関係の打ち合わせが続き、ゴールデンウィークの11日間の大工事監督に突入した。我に帰ると、「俺は何をしているんだ」いう疑問も湧くが、そんな疑問も工事工程の前には雲散霧消する。コロナ前なら今頃は、奥さんとクルーズ船に乗ってゴールデンウィークの船旅を楽しんでいた。クルーズ旅行も3度目あたりから過ごし方もわかってきて、ガツガツ動き回らなくても楽しいバカンスが楽しめるようになった。会社を卒業したら悠々自適のエンジョイライフを過ごしているはずだった。卒業後2年間はコロナで自宅蟄居生活を楽しんだ。本の原稿も2年間で6冊書いて、4冊出版し、残り2冊は今年出す。そんな素晴らしい隠遁生活をエンジョイしている・・・はずが、毎日、防塵マスクに全身防護服を着て、工事立ち合いしている。自分で設計した幅3メートル長さ12メートルの熱処理炉の高機能化工事を指揮している。ドンガラだけになった炉の前でGW中に本当に計画通り生まれ変われるかドキドキものだ。なんでこんなことをしているのか自分でもわからない。考える暇もなく予算を取ってしまった20件の案件を一人で回している。▶これは夢か現か、時々わからなくなるが、工事業者の「また問題が出ました」の電話で工事現場に飛んでいく毎日が続いているので現実なのだろう。しかし、やはり夢か。製鉄所に入ってから新人6年間と全くおんなじ事をしている。独立時「技術コンサルや顧問になって、企業を指導する」というぼんやりした夢があったが、いつの間にか「24時間戦えますか（働けますか、ではありません）」のリゲインモードに戻っている。正直、中学生に戻ってやり直しをしているような気分だ。これでは時々見る「実は大学で単位が取れなくて卒業できていない」とか「やり残した仕事の実はたくさんあって帰れない」という悪夢と変わらない。これが技術士の仕事かどうかはわからない。しかし、技術士が一人中小企業に入り込むとここまでできるという証明をするのも、独立技術士を経て企業内技術士に舞い戻った技術士の務めかもしれないと思っている。▶いろんな事をする時間がなくなるという。しかし、技術士会も、執筆も、セミナー講師も続けながら企業に貢献するのもまたよしとしようと言いつつ自分に言い聞かせている。歳を考えると夢中に過ごしていると歳なんて関係なくなってくるような気がしてきた。現場が性に合ってるのかもしれない。

5 和鐵管見32

▶歯が欠けた。不吉な予感がした。前歯の差し歯が食事中にぼろっと抜けた。鏡を見ると歯抜けジジイがしかめ面をしている。これではいけない。思い起こせば、この差し歯は不吉な因縁を持つ。生の歯は、2013年のパリ行きのエールフランスの夕食で出たフランスパンを齧った時に硬いパンに負けた。おかげでパリでは歯抜けジジイで通した。帰国後会社の歯医者さんが修復してくれた。▶今回はその歯が10年ぶりに抜けた。不吉極まりない。単身赴任の海老名では知り合いの歯医者もない。従ってネット情報しか頼れるものがない。一軒目に予約したところは5月7日まで予約で埋まっているという。とりあえずここで予約したが、ゴールデンウィークの工事立ち合いの間ずっと歯抜けジジイでは元気も出ない。そこで思い直して駅前大きなショッピングモールの中にある19時まで診察してくれる

歯科医に連絡すると、今日でもOKだと言われた。先約はキャンセルしてこの歯科病院に行った。不吉な予感の物語はここから始まる。▶「いらっしゃいませ、おじさま。どこがお悪いのでしょうか？」受付に若い看護師が四人座っていて誰に声をかけようか迷っていた和鐵は、相手が声をかけてくれて緊張が解けた。（俺のこと、おじさまだって。ジジイでなくよかった）「前の差し歯が取れたんです。18時半に予約したものです」「問診票を書かれたらすぐに見ますよ」（あれ、サービスいいな）すぐに予備診察室に通され、レントゲンを撮られた。「痛くありませんか？」「え？レントゲンって当たったら痛いんですか？」「いえ歯のことで」完全にヒヒジジイモードになっている。すぐに処置室に通された。部屋が11もあり、11番目だ。「一番奥の部屋ですのでゆっくり歩いてきてください」「じゃあそこで待てばいいんですね」「いえ、私の方が先に到着します」ゆっくりと言われたが、そう言われれば急ぎたくなるのが性分だ。全力の早歩きで11番目に飛び込んだ。息の荒い看護師さんが待っていた。和鐵が全速で駆け出したので相手も急いだんだろう。実は部屋の後ろが全て繋がっていてお医者さんや看護師さんがどの部屋にも行き来できる構造になっているようだ。うまくできている。「すぐに先生がいらっしゃいます」女医さんがすぐにやってきた。「どうしたの？」「歯が抜けました」「まあ、歳だからね」「いえ、差し歯が抜けたんです」手帳の中から抜けた歯を取り出して渡した。「あら、これがあれば差し込めるかもしれないわ。ちょっと見させて。うん、セメントで固めて埋め込みましょう」言葉だけ聞けばまるで土木作業だ。あつというまに抜けた歯は元の位置に修復された。「今度取れたら作り直しよ。はい今日はここまで。あとの処置は看護師さんにお任せするわ」ここから試練が始まった。▶「看護師です。はい、あーんしてお口の中を見せてね」まるで幼稚園児をあやすような口ぶりだ。悪い気はしない。「あーん」「よくできました。今から歯と歯茎を調べるからね。悪いところを見つけますよ。C3は2、C4は・・・あれこれなんだ」「どれどれ」他の看護師が寄ってくる気配。「これは・・・被せで決まりっす」ちょっと言葉遣いが荒い。その後もふたりでわいわい言いながら和鐵の口の中を覗きこむ。悪い気はしない。残念なことは、口周りだけ露出する布が顔全体にかけられているため、近寄る顔は見えない。声だけ近寄ってくる。▶看護師が和鐵に優しくささやいた。「和鐵さんは痛いことは嫌い？」「いえ大丈夫だと思います」「じゃあ、ちょっと痛いから。痛かったら左手をあげてね」とたんに、歯茎と歯の間に針がぶすりと差し込まれた。あまりの突然の痛みに「ウギョエ」と言葉にならない悲鳴をあげる。左手はしっかりジーパンを握りしめている。「3。4。4。3健全」針が容赦なく差し込まれていく。「大丈夫？麻酔かけましょうか？」「なんのこれしき」「じゃあ続けるね」「3、4。うわーあものすごく入る。見てみて！」「先輩、11ってすごくないっすか」「すごいよ、これ」和鐵の歯茎で遊ばないでほしい。口の中は麻酔はしなかったのに歯茎と歯の間にはいる針の痛みは相当なものだ。▶やがて検査が終わって布がとられた。看護師が後ろからチェックシートを目の前に示し、「この3というのは歯茎の深さが3ミリという意味よ。半分くらい3を超えているので歯槽膿漏だらけってことね」「え、そうなんですか？」「まあ和鐵さんのお年なら歯槽膿漏でなくても骨が下がっていくので大きな数字になるのよ」なんだか、講義を聞いているような調子で説明する。「ていうことは別に治療しなくてもいいんですよね」「まあそうね。不思議なことに虫歯は一本も見つけれなかったし、今すぐ治

療の必要はないわ。でも、先生からの伝言で『次回は歯石をとる』ことになっているので受診日を受付で決めましょう」「わかりました」「それで、その後なんだけど・・・虫歯はないけど、ところどころ気になるところがあるの。通ってこられる？」「まあ、会社が終わった18時半くらいなら通えます」「まあ嬉しい！私たちと一緒に悪いところをやっつけましょう」悪い気はしない。▶というか、とてもいい気分だ。あのグリグリの痛みを耐えた。冷や汗も引いた。痛みの後に優しく声をかけられると、なんだかとても爽やかな気分になる。先ほどまで、「まだいける？」「大丈夫」「行きますよ」「ヒョエー」の繰り返しもなんだかいい思い出になる。「さあ、受付で次回の予約をしてね」▶もう受付には患者が誰もいない。まだ四人も座っている看護師の一人がすぐ手招く。「次回の予定を決めましょうね。えっと、和鐵さんはお昼の時間がいいかしら？」「いえ、働いているのでウイークデーは18時以降でしか無理です」「あらそうなの。大変ですね。じゃあ、最短では5月5日はどうかしら？」「その日は工事の立ち合いで無理です」「そうなの。じゃあ、11日の土曜日は？」「近畿本部の20周年記念で大阪に行ってます」「12日は？」「新人歓迎会で東京です」「ふうん、じゃあ14日の18時半からは？」「東京で技術者倫理研究会で講演してる最中です」「あら、お年の割にはおいそがしのね。では15日は？」「あ！その日は空いてます！」「やったあ。じゃあ15日に私たちがお待ちしています」「わかりました。今日は歯を入れてくれてありがとう」「絶対来てね。さっき入れたスマホのアプリにも予定が入っているから忘れないでね」「わかりました」「お大事に」集まってきた看護師さんたちが一斉に手を振る。悪い気はしない。▶不吉な予感しかない。歯石を取ったあともこの調子で次の予定が入り、定期的に「ヒョエー」を受けにこの病院に通い、挙句はインプラントやなんやら高額商品に手を出す予感しかない。でも、魅入られたように歯科病院に通い続ける、そんな楽しい、あ、いい間違った、暗い未来が脳裏を掠めた。悪い病院に当たってしまった。でも悪い気はしない。